

『銀上絵付けについて』

1. 本焼成後の陶磁器釉薬面、素地表面上に上絵付け焼成により銀金属皮膜を形成することは可能です。但し焼成直後はその金属皮膜は焼成過程で変質していますので、シリコンサンドなどにて軽く磨く事により、はじめて銀特有の落ち着いた銀色を呈します。
なお、銀は数ヶ月経ちますと、酸化して変色しますので、再度磨いて下さい。
2. 銀上絵付けの材料として銀液（油性・既調合）と上絵付け用に調合した上絵用 酸化銀末（粉末）があります。
 - (1) 銀液について
銀液は有機樹脂中に銀粉末が混合された物です。最初は瓶底に銀金属末が沈殿していますので、沈殿物がなく液が均一の状態になるように良く振り、基本的には原液で垂れないように注意し一度で丁寧に塗布してください。
粘度が高く塗りにくい場合は金油などを少し加え調整してください。
その後半日以上室内で乾燥させ、窯入れを行い、常温から 400℃まではゆっくり温度を上げ（100℃/時間）樹脂などを完全にガス化してから、適成温度まで昇温させ最高温度で10分位保持し、自然冷却してください。一般的な焼成温度は 750℃です。
使用した筆、刷毛などは金油などの有機溶剤で洗浄してください。
 - (2) 酸化銀末について
上絵用酸化銀末のほとんどは化学反応により酸化させた酸化銀でとても細かな粉末ですので塗布時の塗り延びが良いと思います。
この酸化銀末を 750℃で焼成し銀金属皮膜が形成できるように調整したものです。
一般的にはこの上絵用 酸化銀末を水溶性メジウムや水溶性糊溶液などで練り、水で少し希釈しながら使用します。
銀液と比べて燃焼損失する樹脂分がないのが特徴です。
素地面の凹凸荒い場合にはこちらのほうが適していると思います。
使用した筆、刷毛などは水で洗浄してください。
3. 不具合・注意点について
銀上絵付けでは剥離などの不具合が生じることがあります。以下の点に気をつけてください。
 - 銀液を良く混ぜて使用すること。
銀金属が液中に均一に分散していないと、塗りムラ、剥離が起きやすいです。
 - 銀液塗布後は室内で半日以上乾燥させること。
塗布後すぐに焼成すると、液中の油脂分が急激に燃焼しその部分が剥離しやすいです。
 - 適度の厚み（薄すぎない、厚すぎない）塗り方に注意すること。
焼成後に磨くことにより綺麗な銀金属皮膜となります。難しいですが薄すぎず厚すぎず塗布してください。
 - 焼成後、最初に変質した皮膜を取り除いた色が一番綺麗な白い銀色です。しかし、銀金属の性質上、酸化変色は避けられません。また、茶黒く変質した皮膜は磨きペーパーで再度磨いても最初の色には戻りません。